

# 呉錦堂を語る会通信

NO.20 Aug. 2015

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橋 雄三 方「呉錦堂を語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員

発行日 2015.8.15



## 大人物小故事 (14)

我的外公吴锦堂

曹愛徳著

『大人物小故事』は18の話と「前言」および「後記」から成り立っております。「前言」を当『通信』第9号に載せたのをはじめとして、折にふれ、一話、また一話と掲載してきました。この号では、二つの話を載せました。特に最初の『善悪』は、「呉錦堂、暗殺者に襲われる！」というスリリングな話です。お楽しみください。なお、日本語訳は編集委員が担当しました。また、当『通信』の挿絵・画像は、中文枠内のもは原書にあるもので、訳文枠内のもは、原書とは関係なく、編集委員の判断で入れたものです。  
(編集委員 橋雄三)

### 善 悪

我妈生前最爱看的书是《圣经》，最爱讲的是外公的故事，最爱吃的是宁波汤团。有一天，我在单位遇到一些不愉快的事，回家后心理就纳闷，不说话，吃饭也不香。我妈发现后就劝我，不要为一点小事影响了身体，吃亏是福。于是她一边喝着酒，开始低声讲述外公的一则惊心动魄的故事：“当年，你外公在日本经商发了大财，出巨资，又出大力为家乡人民做善事，竟然还有狼心狗肺的人要谋害你外公。”我听了以后觉得不可思议，看了看妈妈，便问：“是真的吗？”妈妈说“别打岔”，接着继续讲：“当年，你外公为家乡兴修水利的大工程操碎了心，伤透了脑筋，拿出了钱财还要常常牵心挂肚，在工程的进行中遇到家乡有大暴雨，你外公就坐卧不安。于是不顾家人的劝说，冒着严冬回到了家乡，白天马不停蹄地办理许多重要的事情，晚上就回到学校的宿舍。虽然又冷又累，但还是坚持审阅有关的资料，由于连日的奔波，外公喉咙干渴难忍，接连喝了几杯开水就吹熄了蜡烛，蜷缩在冰冷的被窝里。”



### 善 悪

私の母が、生前、最も愛読したのは『聖書』で、最も好んで話したのは私の祖父のことで、最も好んで食べたのは寧波団子スープでした。ある日、私は職場で不愉快なことがありました。帰宅後、納得いかず、黙りこくって、食事もおいしくありませんでした。母が気づいて、些細なことにくよくよすると体に良くないですよ、禍は福です、と私を慰めました。そして、母はお酒を飲みながら、低い声で、祖父のはらはらするような話を話し始めました。「当時、あなたのお祖父さんは日本で財をなし、巨額のお金を出して、精一杯、故郷の人々のために慈善事業を行っていました。それなのに、あなたのお祖父さんを殺そうと企む残忍非道な人もありました」。そこまで聞いて、私は不思議に思い、母をちょっと見て、「本当ですか？」と訊ねました。母は、「話の腰を折らないで」と言って、話を続けました。「あの頃、あなたのお祖父さんは、故郷の水利施設を建設する大事業に心を砕き、頭を悩まし、金銭や財産を持ち出し、事業のことが常に気にかかっていた。事業の進行中、故郷は暴風雨に見舞われ、あなたのお祖父さんは、不安で、居ても立っても居られませんでした。それで、家族の忠告にもかまわず、厳冬をおして故郷に戻り、日中は幾多の重要な用件を忙しく処理し、夜は学校の宿舍に帰っていました。たとえ、寒く、疲れていても、頑張って関係資料を詳しく調べる毎日でした。連日の奔走で、祖父は喉がからからに乾いていたので、続けざまに何杯も湯を飲んで、ロウソクを吹き消し、冷え切った布団のなかでちぢこまりました。」

## 大人物小記事 (『善悪』続き)

(前頁より続く)

“过了不久，有一个黑影看着外公的房间已经漆黑无动静，就用黑布蒙上了脸，从大树的后面贼头贼脑，蹑手蹑脚慢慢地向目的地移动。但他毕竟不像职业杀手那样动作利索，老练，他探头探脑地仿佛在盘算是从窗户还是从房门入室。”听到这里我的心都揪起来了，摒住了呼吸。“当黑影撬门入室，借着淡淡的月光看清你外公睡的方向，正要向你外公下手的一瞬间，门外来了一个‘飞腿’，把歹徒手里的匕首踢了出去，歹徒突然大吃一惊，想拔腿逃身，谁知‘飞腿’用了全身的力气死死地压住他，并高喊：‘快来人，快来人，抓凶手！’师生们闻声赶到，用绳子把凶手严严实实地捆住了。你外公被意外的声音惊醒，急忙起身点亮了蜡烛，仔细一看，眼前是一个穿一身黑衣的陌生男子，急问：‘你到底是什么人？我与你素不相识，又无仇恨，你为何深夜要来谋害我？’那人全身颤抖，伏在地上，接连磕头，并不住地呼：‘先生饶命，先生饶命！’并立即从内衣的口袋中掏出一张纸片，递给你外公，纸上写明：‘事成之后，赏洋五百元。署名：沈增辉。这时，你外公心里明白了，歹徒为了钱被人收买，实属愚蠢可怜。‘念你初犯，我先不告官处置，但是你必须赶快离开慈北，今后要好好做人。’歹徒真是做梦也没有想到，你外公的心地这么善良，有爱心，非但没有以牙还牙，判他杀人之罪，还送了他十几两银子给他做路费。歹徒听了以后连声道谢，说：‘我今后一定要改邪归正，我做牛做马也要报答先生的恩德！’”

「ほどなく、一つの黒い影が、お祖父さんの部屋がすでに真っ暗で動きのないのを見て、黒い布で顔を隠し、大きな木の後ろからこそこそ、足音を忍ばせて、目指すところへゆっくりと移動してきました。でも、その黒い影は、プロの殺し屋のようにすばしっこくも慣れてもいず、部屋に、窓から入ろうか、ドアから入ろうかと思案しながら様子をうかがっていました」。ここまで聞いて、私の心は話に引きずり込まれ、息もできないほどでした。「黒い影は、ドアをこじ開けて部屋に入りました。淡い月光でお祖父さんの寝ている様子がはっきりと見て取れました。黒い影があなたのお祖父さんに向かって、まさに、手を下そうとした瞬間、ドアの外から“飛びけり”が賊の手にある匕首を蹴り飛ばしました。賊はビックリ仰天し、素早く逃げ去ろうとしましたが、思



いきや、“飛びけり”は、全身の力で、隙なく賊を押さえつけ、‘おーい誰か、おーい誰かいないか、賊を捕まえた！’と大声で叫びました。教師や学生は、声を聞いて急いで駆けつけ、縄で賊の手をしっかりと縛りました。お祖父さんは思いがけない声に驚いて目を醒まし、急いで身を起こし、ロウソクをつけ、仔細を眼にし、目の前の全身黒衣の見知らぬ男に、‘一体、お前は誰だね？私はおまえと一面識もなく、恨みを買う覚えもない。おまえはどういうわけで、深夜、私を殺しに来たのか？’とせわしく問いただしました。その男は、全身をふるわせ、地に伏して、何度も頭を地面につけ、‘お助けください、お助けください！’と叫び続けました。その上、即座に、下着のポケットから一枚の紙片を取り出し、お祖父さんに手渡しました。その紙には、‘事、成就の暁には、褒美として洋銀五百元’とはっきりと書かれ、沈増輝の署名がありました。この時、お祖父さんは、事の真相を理解しました。賊はお金で雇われたのです。実に愚かで哀れです。‘お前は、初めて罪を犯したのだと思う。私は、ひとまず、役人に訴えはしない。しかし、お前は必ず、すぐに慈北を離れ、今後、正しい人間にならなければいけない。’賊は、お祖父さんの心がこうも温かく、情愛に厚く、‘歯には歯を’ではなく、また、自分に殺人の罪を着せず、その上、旅費として十数両の銀までくれるとは、本当に、思いも及びませんでした。賊は、お祖父さんに何度も礼を述べ、‘今後、必ず改心し、どんなことでもして、先生のご恩に報



祖父の話をする母 (魏瑤仙)

(次頁へ続く)

## 大人物小故事

(2頁より『善悪』続く)

“原来真正的凶手是沈增辉，自从你外公将兴修水利工程的大权都交给沈增辉以后，他就渐渐地私心膨胀，大肆贪污公款，独揽大权，以致引起了民愤，他这次风闻你外公回来后，要调查处理他，所以他心惊肉跳，狗急跳墙，采取了收买杀手谋害你外公，来达到他的阴谋。所以就发生了上面一幕惊心动魄的故事。”

“那天，歹徒趁学校放学的时候，偷偷潜入校园，摸清了行动的方向，就开始躲在玉风山周围的一棵大树下，喝酒壮胆，足足苦等了好几个小时。”

“再说那个‘飞腿’就是学校的校工阿刚，他对你外公的善举十分的敬佩，被外公不辞辛劳的精神深深地感动，自建校以来他一贯忠于职守，以校为家，虽然上了年纪，但是反应很灵敏。年轻的时候曾经学过‘拳’，功夫实在厉害，平时他晚上惯例要提着灯四处巡逻，当他发现了黑影，心里就产生了怀疑，但是捉贼要捉脏，于是就丢掉了灯笼，死死地盯住他，当凶手在作案的过程中，阿刚伯伯表现得机智勇敢。”妈妈说：

“好人自有好报，多亏阿刚伯伯救了你外公的命，那毒蛇沈增辉后来成了落水狗，夹着尾巴逃离了家乡，没活多久就死在它乡。你外公办完公事后在当地警察的护卫下以一个胜者的姿态从宁波回到了日本。”

「なんと、本当の殺人犯は沈増輝だったのです。あなたのお祖父さんが水利事業の権限をすべて沈増輝に渡してから、彼はだんだん私心を膨らませ、欲しいままに公金を着服し、権限を一手に握り、人々の怒りを買っていました。彼は、このたび、お祖父さんが戻ってきて、調査をし、自分を処分するといううわさを聞いて、戦々恐々、窮鼠猫をかむの例え通り、殺し屋を雇い、お祖父さんを殺し、陰謀を達成しようとしたのです。それで、このような、手に汗を握るできごとがおこったのです。」

「あの日、賊は放課後、こっそりキャンパスに侵入し、どう行動するかを思い巡らし、玉風山周辺の本の大樹の下に隠れ、酒を飲んで肝っ玉を太くし、根気よく何時間も待ったのです。」

「それに、あの‘飛びけり’は学校の用務員の剛さんでした。彼は、お祖父さんの善行に非常に敬服し、お祖父さんの労苦をいとわない精神に深く心を打たれ、学校の設立以来、ずっと、自己の職務に忠実で、学校を自分の家としてきました。年をとっても、動きは非常に機敏でした。かつて若いころ、‘拳’を習ったことがあり、カンフーは本当に素晴らしく、ふだん、彼は夜、灯りを持って、校内を巡視するのが慣例でした。彼が黒い影を見つけた時、怪しいと思いましたが、‘泥棒を捕まえるには盗品を押さえよ’で、彼は灯りを持たず、ずっと、賊に目を光らせ、賊の犯行中に機知に富んだ勇敢さを示しました」。母は、「善人には、おのずと、善い報いがあります。剛おじさんのおかげで、お祖父さんは命が助かり、あの毒蛇、沈増輝は、その後、‘落水狗（力を失った悪人）’になり、しっぽを巻いて故郷から逃げ去り、ほどなく、他郷で死にました。あなたのお祖父さんは、事業を完成させると、当地の警察の護衛のもと、威風堂々、寧波から日本へ戻りました。」と話しました。

(4頁『宿願』の続き)

正在这十万火急的时候，我外公急中生智，千方百计请日本专家来到了现场，迅速商量如何采取得力的决策，外公又全力以赴不惜重金雇工抢筑，为后人树立了英雄的榜样。

亲爱的外公，你为家乡人民谋幸福，实在是付出得太多太多，在中国至少在宁波历史上是没有私人投资兴修水利的。你是宁波人民的好儿子，你永远活在家乡人民的心理！

まさに、この十万人の火急の時、祖父はとっさに良い知恵が浮かび、百方手を尽くして、日本の専門家が故郷の工事現場に来てくれるよう頼み、どんな方策を講じうるか迅速に相談し、全力を尽くし、お金と労力を惜しまず投入して緊急工事を進め、後世の人々のため、英雄の模範となる事業を成し遂げました。

親愛なるお祖父さん、あなたは、故郷の人々の幸福のために、本当に非常にたくさんものを差し出しました。中国、少なくとも寧波歴史上、私人で水利事業に投資した人はありません。あなたは、寧波人民の好漢で、故郷の人々の心に永遠に生き続けます！

# 大人物小故事 (15)

我的外公吳錦堂

曹愛德著

## 夙 願

外公的家乡慈溪三北地区有杜、白二湖，多少年来牵连十余万百姓的生计。外公深深记得早年老家受够了二湖的迫害，日子实在难熬。有一次外公见老父亲很愤怒地叉着腰，跺着脚，叹着气说：“杜、白二湖不修，我们慈北农民做死也不会过上好日子。”年轻血气方刚的外公听了这番话就卷起了袖管暗暗地发誓：“哼，将来我有了钱，这杜白二湖的水利我来修！”

外公是一个有志向，有抱负的人，终于在日本经商取得了大丰收，回到家乡，来到坟地，跪在父母亲的面前，自言自语地告慰老人：“现在我可以修杜、白二湖了，这是我的宿愿。”于是外公就拨出巨款，不顾一切，毅然决定兴修两湖。

可是真要实施这庞大的两湖修建水利工程是谈何容易啊？修建桥，闸，水坝十余座，项目之多，时间之长，耗资之大，难度之深是无法预测的。但是我外公没有犹豫，没有惧怕，相反老当益壮，敢挑重担，为了工程见缝插针，多次国内，国外往返奔波，精疲力竭。甚至冒着生命危险谱写了一曲铤而走险的故事。

工程终于启动了，经过几年的奋力作战，眼看胜利在望时却又遇上了初夏的季节，连着下大暴雨，山上的雨水像洪水汹涌倾入二湖，外公得知以后万分焦急，终于不顾家人的劝说飞回了国内老家，赶到了现场，冒雨巡视。眼看湖水凶猛地澎涨，已经加高，加固的湖堤快挡不住了，

要不及时采取紧急措施，很可能发生大危险，导致先前的努力一同埋葬。



【外公、外婆合影于日本】

## 宿 願

祖父の故郷、慈溪三北地区には杜、白という二つの湖があり、これら二つの湖は、長年にわたり、十余万人のくらしと繋がっていました。祖父は、若いころに、故郷が、これら二湖が引き起こす災害をずいぶんこうむり、暮らしの耐え難いことを肝に銘じてきました。あるとき、祖父は、故郷の人々が非常に憤り、手を腰に当て、足で地を蹴り、ため息まじりに、「杜、白二湖が修理されないと、私たち慈北の農民は、死んでも暮らしがよくなるまい。」と言っているのを聞いたことがありました。若くて元気盛りの祖父はこの話を聞いて、袖を巻き上げ、ひそかに、「よし！将来、金持ちになったら、私がこれら杜白二湖の水利施設を修復する！」と誓いました。

祖父は志を持った、理想を抱いた人で、ついに、日本で事業をし、財を成しました。故郷に帰り、墓参りをして、父母の面前にひざまずき、「いま、私は杜、白二湖を修復できます。これが長年の願いでした。」とつぶやき、父母を安心させました。それで、祖父は、巨額の資金を出し、一切かまわず、毅然と、両湖の水利事業を興すことを決定しました。」

しかし、この膨大な両湖の水利事業の実施は、口で言うほど容易ではありません。建設する橋、水門、堰堤・ダムは十余か所、項目の多さ、工事期間、資金、工事のむずかしさは予測できません。ただし、祖父はためらうことなく、恐れることなく、老いてますます盛んで、あえて重荷を担ぎ、工事のためにはあらゆる可能性を利用し、何度も国内外を往復、奔走し、精根を尽くしました。あえて生命の危険を冒し、切羽詰まった事態の中で進められた向こう見ずな物語をつくりだしました。

工事はついに動き出し、力の限りを尽くした戦いも数年がたち、事業の成功が視界に入ったとき、また、初夏の季節が巡ってきて、次から次と大暴雨が続く、山上の雨水は洪水のように逆巻き、二つの湖にどっと流入しました。祖父は状況を知って、ひどくやきもきし、身内の説得も顧みず、ついに、故郷へ飛んで帰り、現場に急いで駆けつけ、雨を冒して巡視しました。祖父がそこで目にしたのは、湖水がすさまじく膨張し、既に、高く固く補強した堤防が決壊しそうで、すぐに緊急措置をとらないと大危険が発生し、これまでの努力が全て葬り去られそうな状況でした。